



与那原地区について

与那原地区は、沖縄本島の東海岸南部に位置し、中城湾に面している。

町は、古くから那覇・南部・中北部を結ぶ交通の要衝として栄えてきた。近年は、東海岸地区にマリントウンが整備され、本島東部の中核都市へと急速に発展している。

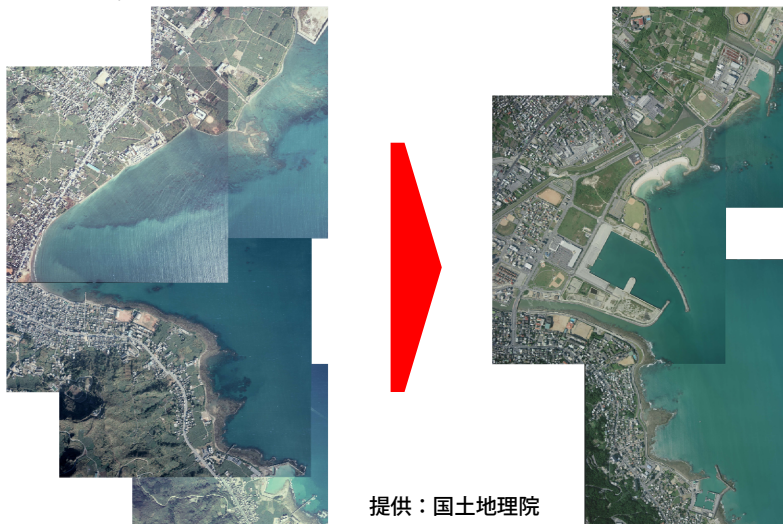
地区の漁業は、ソデイカ漁やマグロ漁が盛んで、ソデイカの水揚量は県内トップクラスである。また、地先の礁原（しょうげん）の岩礁域では、県内唯一のヒジキ漁が行われている。



サンゴの現状

与那原地区には、かつて海水浴客で賑わうキレイな礁原や礁池（イノー）が広がっていた。しかし、町の発展にともなって、水質が悪化し、埋立等で礁原や礁池などが大きく消失し、市民の海離れも急速に進んでしまった。

また、広く分布していた造礁サンゴも、埋立・水質悪化・オニヒトデによる食害等によって消失し、イセエビなどが多く漁獲される豊かな沿岸が失われつつあり、その保全・再生が地区漁業にとって喫緊の課題になっている。



提供：国土地理院

組織の設立と活動の目的

地区の沿岸漁業に危機感を覚える漁業者や、サンゴ礁などの身近な海の保全を考える地域住民が集まり、平成 25 年度に「与那原地区美ら海会」が設立された。

本会の設立の目的は、以下のとおりである。

- ①市民、特に海離れが深刻な子どもたちに与那原の自然豊か身近な海を知ってもらう
- ②オニヒトデ等の食害により減少した造礁サンゴの回復



活動の実践

(1) 自然豊かな海を守り・知ってもらう活動

与那原地区の板良敷から当添の海岸には、岩礁帯が現在も広がっており、干潮時には大小様々なタイドプールが形成される。

タイドプールには、様々な生物が生息しており、それを気軽に観察し、楽しむことができる。また、こうしたタイドプールには、かつてサンゴが生息しており、身近な自然の水族館として活用できるのではと考えた。

そこで、地元小学生児童やその保護者などと一緒に、養殖した稚サンゴをタイドプールに植え付け、サンゴやそこに棲む生き物について学ぶ「与那原っ子！海を守るサンゴ移植授業！」を年 1 回開催している。



座学（沖縄のサンゴについて）



サンゴの植え付け

(2) 造礁サンゴの回復

与那原地区において、造礁サンゴが大きく減少した理由は、埋立等による土砂の堆積による影響も場所によってあるが、オニヒトデによる食害も大きな要因と、地元では考えられている。

そこで、オニヒトデによる食害を受けない柱状のサンゴ育成礁を平成 25 年度に自作・設置し、そこに養殖した稚サンゴを移植し、核となる造礁サンゴをつくり、サンゴの回復を図っている。



育成礁の製作・設置 (H25.12)



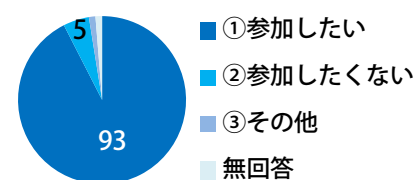
稚サンゴの移植 (H25.12)

活動の効果と課題

「与那原っ子！海を守るサンゴ移植授業！」は、15 名程度の募集で取り組みを行っているが、学習会のリピート率が高く、今年度は子ども 38 名、保護者 15 名の参加が認められるなど、好評である。

造礁サンゴの回復の取り組みは、平成 25 年度に移植した稚サンゴの生残率が 5 年経過後の 29 年度も 80% と高い状態が続いている。また、各群体が確実に成長しており、これら核となるサンゴ群体の産卵による周辺海域への回復効果が期待される。

今後は、引き続き学習会を開催していくとともに、新たな育成礁設置による造礁サンゴの拡大を図っていければと考える。



サンゴを守るイベントに参加したいか？



5年後の移植サンゴ (H30.01)